

効果のあった実践事例

学年 第1学年 教科等 算数科
単元・内容 「いくつといくつ」 数の合成・分解の理解
○ ねらい ・数の合成・分解への理解を深めるとともに、学習規律の定着を図る。 ○ 手立て 学習用具（ノート・筆箱・数図ブロック）の置き方・使い方を明確化する。学習展開をパターン化（問題提示、見通し、自力解決、全体解決、まとめ、練習問題、振り返り）する。 1 提示物を見ながら、全員で「6は○と□」と答える。 2 提示物を見ながら、一人ずつ「6は○と□」と答える。 3 数の分解について、数図ブロックを使って個人で考える。 4 できた児童は、数図ブロックを筆箱の下に置き、手をひざの上に置いて待つ。 5 数の分解について全体で交流する。 そして、数図ブロックの操作の仕方について黒板で確認する。 (同時に数字を板書していく。) 6 発表したものについて、個人で同じように数図ブロックを操作して確かめる。 ○ 児童の変容 1 単元を通して、学習展開をパターン化することで、数図ブロックの操作や置き方が定着し、6以上の置き方の理解が深まり、10の補数を視覚的に捉えることができるようになった。 2 数図ブロックの置き方を板書と同じにすることで、さらに理解が深まった。 3 数図ブロックの並べ替えができたときは、机の上部にある筆箱の下に置き、手をひざの上に置いて待つことを徹底することにより、できた児童とそうでない児童の把握が容易になるとともに、次の指示を聞く姿勢ができ、学習規律の定着も図ることができた。 ○ 実践者のコメント 1年生の1学期での学習規律の定着を図ることは大切である。それと同時に学習の理解状況を把握し、個別の支援を行っていくことも大切である。そのために、学習展開のパターン化と学習用具の置き方・使い方の明確化が有効だと考えられる。その後の単元でも、数図ブロックを操作して数と計算の学習を行うので、1学期に身に付けておくことが有効である。